国際化学肥料ニュース（2019 年 9 月）

肥料業界の 2019 年 9 月動態

＊ 9 月 6 日インド MMTC 社が今年 5 回目に当たる尿素の国際入札を行った。契約数量未定、9 月 13 日締切と開札、10 月 16 日まで船積みという条件です。

また、9 月初めにエチオピアが 60 万トン尿素の国際入札、9 月 19 日締切と開札、バングラデシュも小粒尿素と大粒尿素それぞれ 10 万トンの国際入札を行い、9 月 12 日締切と開札する。尿素の国際入札が立て続きで、9 月上旬各地の尿素 FOB 価格が 8 月中旬に比べて 5～15 ドル／トン上がった。

＊ 9 月 6 日インド MMTC 社が行った尿素の国際入札は 13 日開札した。12 社計 222.6 万トンの入札量で、最低応札価格は Swiss Singapor 社の CFR 西海岸 276.06 ドル／トン、Transglobe 社の CFR 東海岸 278 ドル／トンである。なお、CFR280 ドル／トン未満の応札量が 73.35 万トンである。応札尿素は価格の安い順では中東、ロシア、中国で、量の多い順では中東、中国、ロシアである。契約数量 95 万トン。

また、中国国内の消息筋によれば、今回のインド尿素入札に於いて、中国の落札量が約 25 万トン、そのうち 15 万トンはイラン尿素の転売で、約 10 万トン（5 万トン／船、2 船）は中国尿素である。

＊ 中国税関の統計データによれば、今年 1～7 月の化学肥料輸出と輸入が活発になり、ともに盛況を占めす。主な品目のデータは下記の通り。

尿素輸出量が 165%増の 204 万トン、輸入量が 37.5%減の 10 万トン、硫安輸出量が 10%減の 336 万トン、塩安輸出量が 8%増の 54 万トン、アンモニア輸入量が 6.3%減の 59 万トン、DAP 輸出量が 18%増の 363 万トン、MAP 輸出量が 50.9%増の 169 万トン、重過石輸出量が 47%増の 81 万トン、化成肥料輸出量が 75.3%増の 135 万トン、輸入量が 2.4%減の 86 万トン、塩化加里輸出量が 30%増の 13 万トン、輸入量が 32%増の 629 万トン、硫酸加里輸出量が 23 万トン。

＊ 中国税関の速報によれば、2019 年 8 月の化学肥料輸出量が 11.4%増の 242.7 万トン、金額 1.9%増の 6.41 億ドル。その内訳は、尿素 66 万トン、DAP50 万トン、化成肥料 10 万トン、硫酸加里 2.5 万トン。輸入量が 65.2 万トン、金額 1.97 億ドル。その内訳は塩化加里 46 万トン、尿素 7.7 万トン、化成肥料 6 万トン。

＊ カナダの Nutrien 社は加里肥料の国際市況低迷の影響で、Saskatchewan 州にある Allan、Vanscoy と Lanigan 加里鉱山を 11 月から 8 週間で稼働停止させると発表した。この 3 つの加里鉱山の一時稼働停止により約 70～100 万トン塩化加里生産量を削減する。なお、稼働停止により 600～800 人の従業員を一時帰宅待機させる。

＊ ロシアの uralkali 社は 9 月第 2 週からインドと 2019～2020 年度の塩化加里輸入基本契約に関する交渉を始めたと発表した。ロシア側は昨年と同様の CFR290 ドル／トンを要求したが、インド側は CFR290 ドル／トンより若干安い値段で応酬するという。10 月か 11 月に契約するとの観測がある。

＊ ロシアの Uralkali 社は、加里肥料の国際市況不振を打開するため、2019 年下期に 35～50 万トン塩化加里を減産する計画を発表した。Uralkali 社は 1～6 月の塩化加里生産量を約 3%（18 万トン）減少し、販売量が約 8%（47 万トン）減少した。

＊ 9 月第 3 週のリン安市況が不振のままである。インド NFL 社が 9 月 18 日締切の 4.5 万トン DAP 入札では 7 社応札があり、最低応札価格が CFR328.67 ドル／トンである。中国産 DAP の FOB 価格が 320 ドル／トン未満に下がった。パキスタンが中国から CFR335～340 ドル／トンで 3.5 万トン DAP を購入し、ルーマニアがメキシコの Pemex 社から CFR360 ドル／トンで 3 万トン DAP を購入する。ただし、アメリカでは Mosaic 社が第 4 四半期に DAP50 万トンを減産する発表があり、アメリカの DAP 価格が若干上がる傾向である。

＊ 塩化加里の国際市況が低迷している状況で、ドイツの K+S 社も第 4 四半期に塩化加里 30 万トンを減産する計画を発表した。ただし、減産するのはドイツ国内の加里鉱山に限って、2017 年完成したカナダの Bethune 加里鉱山の稼働率を維持するという。

＊ 塩化加里の国際市況が低迷している状況に於いて、ベラルシーの BPC 社も減産に踏み切った。BPC 社が 4 つの加里鉱山を所有しているが、その内の 3 つの鉱山を臨時休業にして、再開が未定という。

　イスラエルの ICL 社とヨルダンの APC 社を除く世界の大手加里メーカーがそろって減産に踏み切ったことで、2019 年下半期の塩化加里減産量が約 300 万トンである。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

＊ オーストラリア政府は Kalium Lakes 社が計画している Beyondie 硫酸加里開発プロジェクトを国家重要開発項目に指定した。

＊ インド Talcher Fertilizers Limited 社が Orissa 州 Ungul 地域に大型尿素工場の建設を決定した。当該工場はインド初の石炭を原料とする窒素化学肥料工場で、年間生産能力は 73 万トンアンモニア、127 万トン尿素と予定され、建設期間 46 ヶ月、総投資額約 15 億ドル。中国の化学工程グループが原料ガス、アンモニア合成と尿素合成の設備などを担当するという。

その他

＊ 中国最大の化成肥料メーカー金正大社が業績粉飾とオーナーによる会社資金流用の疑惑に陥った。2018 年の決算書には担当会計事務所が異議と表明し、同意の署名をしなかった。2019 年上半期の決算には担当会計事務所が全くない状況である。

金正大は 1998 年創業した民営の化成肥料メーカーで、2010 年中国上海株式市場に上場、中国最大の化成肥料メーカーに上り上がった。しかし、中国政府の化学肥料削減政策と厳しい環境規制の関係で、業績が悪化した。

＊ ロシアの Uralkali 社はブラジルの Fertilizantes Heringer 社を買収し、子会社にすることを確定した。Fertilizantes Heringer 社ブラジル肥料業界トップ 10 社の 1 社で、経営不振で, 裁判所に破産を申請した。Uralkali 社は 1 株 0.4796 ドルの価格で総額 1.1 億ドルを投じて株を取得し、ブラジル国内に化成肥料生産工場と販売ネットワークを入手する。